

学校法人 東京滋慶学園 新東京歯科技工士学校
2024年度 学校関係者評価委員会 議事録

日時 2024年5月23日（木） 15:00～17:00

会場 143-0016 東京都大田区大森北 1-18-2
新東京歯科技工士学校／新東京歯科衛生士学校 702 教室

参加者

●学校関係者評価委員

所属校	氏名(敬称略)	所属	役職	委員区分	任期
新東京歯科技工士学校	森 章	拓殖大学紅陵高等学校	校長	高等学校関係者	2024年4月～2026年3月
	河野 勉	大森歯科医師会	会長	地域関係者	2024年4月～2026年3月
	中村 八大	株式会社 テクニカルセンター	執行役員	卒業生代表	2024年4月～2026年3月
	時田 将吾	歯科技工士科 I 部 1 年 在校生保護者		保護者代表	2024年4月～2026年3月
	木村 正	一般社団法人歯科技工所協会	理事長	業界関係者	2024年4月～2026年3月

●学園・学校関係出席者

氏名(敬称略)	所属	役職
中村 道雄	学校法人 東京滋慶学園	理事長
宮崎 隆	新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校	学校長
岩村 勇	学校法人 東京滋慶学園	評議員
今井 リカ	新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校	事務局長
印南 秀	新東京歯科技工士学校	学部長
富野 浩子	新東京歯科技工士学校	学科長
西村 充剛	新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校	キャリアセンター長
兒玉 あゆみ	新東京歯科技工士学校/新東京歯科衛生士学校	学生サービスセンター長

議題 <会議の概要>

- 開催挨拶
- 委員ご紹介並びに学校関係出席者紹介
- 本委員会趣旨説明
- 2023年度自己評価項目と評価内容の説明
- 2024年度の重点目標と評価に関する説明
- 質疑応答・意見交換
- 閉会挨拶

議 事 （※敬称略）

1. 開会挨拶（学校長 宮崎）

2. 評価委員のご紹介並びに学校側出席者の紹介

欠席：時田将吾委員 ※評価表は別途預かっている

3. 本委員会の主旨説明（副運営本部長 関口）

2013年より始まった職業実践専門課程が専修学校専門課程（専門学校）の教育に関する一定の質を担保している学校として、業界・保護者などの利害関係者から評価されることで称号を授与することが目的とされている。この課程を取得している専門学校は全国で約4割。滋慶学園グループは約9割の学校が認可されている。

職業実践専門課程の認定を受けるには、企業等との密接な連携により、最新かつ実践的な知識・技術等を身につけられるよう教育課程の編成や学校評価等を実施し、職業教育としての質の確保に向け、各基準について組織的に取り組むことが認定要件となっている。その一つとして、学校にて自己評価し、学校が専任した「学校関係者」で構成された学校関係者評価委員会を実施し、それに対し委員より評価や提言をいただき、翌年の学校教育に反映させる必要がある。毎年繰り返し学校運営に取り入れていくものとなる為、学校の自己点検が適切かどうか、評価をしていただきたい。

<評価項目説明>

委員の皆様には前年度の自己点検評価の2次評価をしていただく。

学内自己点検自己評価委員会で実施した内容を事前に委員の皆様へ送付している。

・自己点検、自己評価表(1次評価) 65項目の小項目に対して評価(5段階評価)

・学校関係者評価表(2次評価) 全11の大項目に対して評価(3段階評価)

評価点とともに、各委員からのご意見をご記入いただきご提出いただく。

委員からの平均点数とご意見、議事録を本校ホームページにて情報公開する。

4. 2023年度の自己評価項目と評価内容の説明（事務局長 今井）

5. 2024年度の重点目標と評価に関する説明（事務局長 今井）

対象学校：歯科技工士科Ⅰ部、歯科衛生士学校Ⅰ部・Ⅱ部

学校・学科説明：入学案内パンフレット参照

※以下、詳細解説をした抜粋箇所

<教育理念>

実学教育・人間教育・国際教育

育成人材像「職業人教育を通して社会に貢献する」（詳細は学生便覧参照）

<学校運営>

毎年、事業計画を作成している。

事業計画は、目的・方針・目標・計画・組織図・職務分掌・収支予算書などで構成されている。

高専・産学連携を行い、各種信頼を得るよう運営をしている。

ミッションは国家資格の合格と就職。

<教育活動>

入学前から卒業後まで、キャリア形成・キャリア設計・キャリア開発のフロー教育となっている。

<教育成果>

・就職実績

就職希望者は全員就職出来ている状況である。卒業者数から90%内定、10%は他分野や就職を希望しない学生もいる。就職希望者を増やすことも課題のひとつである。

・教育成果（国家試験）

技工士学校：受験者 59 名 合格者 58 名 合格率 98.3%（全国平均 95.7%）

・退学者数

技工士学校：目標 11 名以内 実績 19 名 1 年生進級率目標 88.2% 1 年生進級率実績 89.2%

課題：卒業資格は得たものの、学力不足により国家試験に合格ができなかった学生が増加した。

<教育活動>

・前回の委員会にてキャリア教育に力を入れる必要があるというご意見をもとに、実習前・中・後に実習を想定したワークを実施し、考え方の引き出しを増やす教育に力を入れた。

・キャリア形成支援について課題が残った。セルフマネジメント力をつける必要がある。

・個人情報の取り扱いについて、学生も職員もITリテラシー試験を実施している。

<学生支援>

辞めやすい時期を見越したシンドローム対策（長期休暇前、学費納入時期等）を年間スケジュールでたてている。属人化しすぎないように、仕組化している。

一人ひとりに対して、担任だけではなく各役割の職員が学生と関わるよう工夫している。またカウンセラーが週2回来ている。学生は自由にカウンセリングを受ける事ができる。

<教育環境>

災害時における組織体制は緊急連絡網の設置や、防災訓練を毎年実施し対応できるようにしている。

全在校生分の3日分の食料備蓄を配備している。

安否確認システムを設置している。緊急時に自動メールが送信され、返信することで状況の集約ができるようになっている。

<学生募集と受入れ>

入学選考に関する規定（募集要項参照）に沿って入試選考委員にて判定を行っている。

保護者の方向けの資料（保護者のみなさまへ参照）や保護者会を開催している。

定員充足率：83.7%（前年：62.5%）

<財務状況>

HPにて財務情報を公開している。

<社会貢献>

大田区と災害時協力協定を締結。災害時には学校施設を提供。

今後も地域との連携を強化していく必要がある。

<国際交流>

海外研修は中止となっており、学内にて海外講師による講演を実施している。

2024年度は海外研修が実施できるよう進めている。

韓国研成大学と教育意見交歓会を実施している。

<前年度の意見からの取り組み>

・国家試験合格率向上のため教育システム改革を実施した。

合格率が、前年度よりも23.8%向上した。内部の対策以外に外部対策（国家試験対策センター）を取り入れ改善されている。

- ・留学生教育の推進を図る。
- ・インターンシップ制度の見直し。
- ・トップ層教育の推進を図る。

6. 質疑応答・意見交換

(森)

学生募集時、進路ガイダンスに呼ばれない専門学校も多いのではないかと。

オープンキャンパスやガイダンスに頼らない学生募集も大切だと考えている。

歯科技工士という職種があることすら分からない高校生に、部活動でのマウスピースの説明・作成などしてはどうか？

また、学内選抜した学生をメインにして、オープンキャンパス等で前出てもらおうと非常に好評である(司会進行等)。

入学者の定員確保は重要。最終的には確実に国家試験に合格ができる力を身につける必要がある。

18歳人口が減少しているうえに、更にコロナ渦により学校に行かない学生が増えている。心に病をもった生徒も増えている。

学力不足で退学する学生よりも、心の病や発達障がいに対応できる学校になってほしい。

(河野)

森先生からお話のあったマウスピースについて、大田区に要望を出す。

技工士が退学しているのは手作業に追い付けない方が多いのではないかと。

(中村)

・合格率が上がり非常に良かったが、受験者数が少ないと感じる。退学者増加も気になる。

→(今井) そもそもの在校生が少なかった。今回の数字は新卒数字。

留年生やリスタート生は7割合格している。

・留学生の合格者もいるようだが、その後就職して技工士の仕事が行われているのか？

→(西村) 「医療」ビザでなく「技術・人文知識・国際業務」のビザで働くこととなる。

・就職先にも協力していただき技工周辺業務をしてる。

(木村)

・雇用側としては入学生全員が退学する事なく国家試験に合格していただきたい。

留学生に関しても遠くない将来、医療ビザが通るのではないかと。

昨年の国家試験合格率は芳しくない結果であったが、即対策をとって見事成果を出したのは素晴らしい。

滋慶学園グループの中で各同分野校の合格率等を目にしたことが無い。御校がどの位置にいるのか非常に気になった。

教師の質、生徒の質は学校によって差がでてくるのではないかと。雇用側からすると非常に興味がある。

・退学者を減らすためにクラス作りに注力するとあったがどういうことか？

→(印南) 専門職ではない職員もクラス運営に携わり、学生のメンター役として誰かに相談したい時に話しやすい環境整備をした。

・事業計画は組織として非常に重要である。

今のスタッフはとても優秀な布陣であるが、教員の変更があった場合でも維持できるようにあってほしい。

評価内容及び委員会での意見を踏まえた改善方策について

- ・ 職種の魅力を業界と連携し継続して認知拡大を図ることによって入学定員の充足を目指す。
 - ・ 技工士の将来像や自己実現を叶えるためのキャリア教育を強化していくことにより退学者の軽減を図る。
 - ・ 各学年の到達目標を見据えて、学習の習熟度をレベル別に支援し、教員だけではなく学生間の支援システムを確立することによって卒業判定試験不合格者の減少を目指す。
-